

えんだよい

2024年

1月号



N0.214

シャローム三育保育園

新年あけましておめでとうございます。

新しい年も皆様の健康が支えられ、恵の多い平和な一年であることを心から切に願います。本年も子どもたちの健やかな成長に必要な経験や楽しい思い出作りができるように職員一同、ご家族の皆様と力を合わせて、安心・安全の保育に務めて参りますので、何卒ご理解とご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

園長 村上 渉

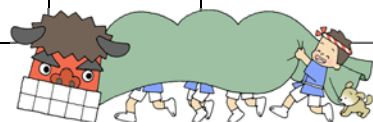


避難訓練の様子も配信いたしますのでご覧ください。



今月の予定

日	月	火	水	木	金	土
	1 元旦	2 年始休み	3 年始休み	4	5	6
7	8 成人の日	9	10 鏡開き	11	12	13
14	15 礼拝 英語教室	16 体操教室	17 避難訓練	18	19	20
21	22 礼拝 英語教室	23 体操教室	24	25	26 保育園職員会議	27 布団乾燥
28	29 礼拝 英語教室	30 体操教室	31 誕生会			



「子どもアドボカシー」

アドボカシーとは「自分の意見や権利を伝える事が出来ない人の代弁や支援をする」という権利擁護の言葉です。

ある保育関連の刊行誌に「子どもアドボカシー」という記事がありました。子どもの声を聴き、子どもが意見を表明する支援をすることです。子どもは全てが発達段階にあり、誰かの助けが不可欠ですが、一人の人格を持った“人”であることを忘れてはいけません。子どもが本当は何を求めているのか、何が必要なのか一人ひとりの個性や特性に配慮した「子ども主体」の子育てがこれからより求められるという事です。

脳の発達は五感を刺激する様々な体験から成長していきます。手足の感触、目に入る光や影、耳から伝わる声や様々な音や口に入るもの、匂いすべてが刺激となり脳の成長に繋がります。かかわり方や刺激の質、環境等は大切な要素になりますが、「子どものために」という思いから、一方的な関わりになってしまう事に注意が必要です。子どものために思っていることが、果たして子どもの意思に沿ったものかを改めて考えてみては如何でしょうか。「子どものために」から「子どもにとって」に置き換えることで、子どもに共感する立場で考えることができます。子どもと一緒に考えてみたり、遊び感覚で複数の選択肢から子どもが選べるようにすることも方法の一つです。「三つ子の魂百まで」というように、特に人格形成の大事な時期の関わり方が大切です。「これもしてあげたい」「あれもしてあげたい」「～しなければ」になりすぎないように気を付けましょう。



私たち保育者も「子どもにとって」「保護者や家族にとって」を大切に、保護者、ご家族の皆様と一緒に育ち合う「子育て」をしていきたいと思います。

園長